

科学と音楽の饗宴

KEKレクチャー & コンサート

2007年9月9日(日) つくばノバホール

共催 高エネルギー加速器研究機構(KEK)・つくば市・(財)つくば都市振興財団

第一部：講演 13:30 - 14:30

- ご挨拶 鈴木厚人 (高エネルギー加速器研究機構機構長)
- 講演 「宇宙と素粒子」 高柳雄一 (多摩六都科学館館長)

第二部：コンサート 14:45 - 16:00 (予定)

- シューマン 幻想小曲集 Op.12より『夕べに』、『飛翔』
- モーツァルト ピアノとヴァイオリンのためのソナタ ト長調 K.301
- J. S. バッハ 無伴奏チェロ組曲 第1番 BWV1007より『プレリュード』
- フォーレ エレジー Op.24
- メンデルスゾーン ピアノ三重奏曲 第1番 ニ短調 Op.49

ピアノ：伊藤 恵 ヴァイオリン：大宮臨太郎 チェロ：横坂 源

第一部： 講演 「宇宙と素粒子」

科学が真実を追求する自然は無限の階層に広がっています。その全てに関わる素粒子と宇宙について、人間はどこまで知ることができ、それによって自然界での人間の立場はどう変化してきたのでしょうか？最新の素粒子研究と宇宙科学の成果をとりあげ、それと関わるKEKの活動の一端を紹介します。



講師：高柳雄一

東京大学理学部物理学科卒業。NHK科学番組等を手がけ、英国放送協会へ出向後、NHKスペシャル番組チーフプロデューサーを歴任し、NHK解説委員に就任。KEK教授、電気通信大学共同研究センター教授、NHK部外解説委員を経て、現在多摩六都科学館館長。小惑星No.9080にTakayanagiと名前を付けられている。著書も多い。分かりやすい科学解説で知られる。

第二部：コンサート

・シューマン 幻想小曲集 Op.12より 「夕べに」、「飛翔」

ロベルト・シューマン(1810 - 1856)は初めライプツィヒ大学で法律を学んだが、音楽家への夢断ちがたく、20歳でピアノ教師ヴィークの弟子となった。後に作曲技法を学び、初期には『謝肉祭』、『クライスレリアーナ』などのピアノ曲を多く作曲。『幻想小曲集』(1837年)もその中の一つで、幻想的な標題を持つ8つの小曲からなる。「夕べに」はその第1曲で、2拍子でありながら3拍子風の旋律が複雑に絡み、ドイツの穏やかに流れる夕暮れ時を映し出す。続く第2曲のロンド形式の「飛翔」は、ヘ短調から変ニ長調、変ロ長調へと転調し、悲痛な叫びと牧歌的な安らぎの混在する起伏に富む小品である。

・モーツァルト ピアノとヴァイオリンのためのソナタ ト長調 K.301

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756 - 1791)が1778年、就職活動のためのマンハイム滞在中に、プファルツ選帝侯妃マリア・エリーザベトに献呈した6曲のソナタの1曲。ソナタ形式と三部形式の2つの楽章からなり、第1楽章冒頭はモーツァルト得意の「歌うアレグロ」の流麗さが際だっている。第2楽章中間部のシチリアーノ風旋律も秀麗。ドレスデンの宮廷楽長シュスターの影響の下、従来の慣行から離れ、ヴァイオリンとピアノが対等の関係に近い「二重奏ソナタ」に向かう作曲家モーツァルトの意欲的な試みとして知られる。

・J.S. バッハ 無伴奏チェロ組曲第1番 BWV1007より 「プレリュード」

名手バプロ・カザルスによって再発見された傑作として有名な無伴奏チェロ組曲は、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685 - 1750)のケーテン時代の作曲とされ、同時代のブランデンブルク協奏曲やフランス組曲などと同様に6曲構成になっている。各曲がプレリュードと5つの舞曲からなるが、その中の第1番ト長調のプレリュードはアラベスクの分散和音の美しい絶品として、同じバッハの平均律クラヴィア曲集第1巻最初のプレリュードを彷彿とさせる。

・フォーレ エレジー Op.24

ロマン派成熟期から印象派、そして20世紀の無調音楽への激動の中、一貫して保守的で穏和な作風を通したガブリエル・フォーレ(1845 - 1924)は、現代にも耳に親しい佳曲を多く遺している。1879年作の『エレジー』はその好例であり、悲壮なメロディーに始まり、緩やかな静と動の情感の波が幾重にも折り重なって、哀しく美しい。元来チェロソナタとして作曲されたが、種々の楽器とともに演奏され、フォーレ自身の手になるオーケストラ伴奏譜もある。

・メンデルスゾーン ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 Op.49

ハンブルクのユダヤ系銀行家の息子として生まれたフェリックス・メンデルスゾーン(1809 - 1847)は、音楽のみならず文学、絵画など芸術全般にわたる早熟な天才として知られ、バッハ音楽の再興、現在に連なる指揮法の創始など、短い生涯のうちに多くの業績を残している。ピアノ三重奏曲第1番は公私にわたり幸福な時期であった1839年の作曲で、当時メンデルスゾーンはライプツィヒのゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者であった。作品は4つの楽章から構成され、後年のブラームスを想起させる重厚な第1楽章、幸福の無言歌を奏でる第2楽章、機敏な妖精の踊る第3楽章を経て、終楽章は上品かつ華麗に終結する。多様な音楽的スタイルが巧妙に調和する作品であり、シューマンは主筆を務める『新音楽雑誌』の中で、ベートーヴェンの傑作と比肩し得る曲として高く評価し、後世まで長く聴き継がれるだろうと予言した。

ピアノ：伊藤 恵



国際的に活躍している日本を代表するピアニスト。ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学、ハノーファー国立音楽大学卒業。エピナール国際コンクール第1位、J.S.バッハ国際音楽コンクール第2位、クルト・ライマーコンクール第1位、ロン＝ティボー国際音楽コンクール第3位及び特別賞と数々のコンクールに入賞。ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ部門で日本人として初の優勝。内外の主要なオーケストラとも協演を重ねる。現在東京藝術大学准教授。

ヴァイオリン：大宮 臨太郎



日本音楽コンクール3位入賞。ミレニウム・ニュークラシックオーディション1位併せて審査員特別賞受賞。仙台国際音楽コンクールでは入賞と共に聴衆者賞受賞。メニューイン国際ヴァイオリンコンクールで2位受賞。プラハの春国際音楽コンクールでチェコフィルハーモニーと協演している。桐朋学園大学在学中にNHK交響楽団入団。現在NHK交響楽団フォアシュペラー。

チェロ：横坂 源



4歳半よりチェロを始め、日本クラシック音楽コンクール全国大会弦楽器部門小学生の部で最高位を受賞。いしかわミュージックアカデミー・チェロ部門大賞受賞。全日本ビバホール・チェロコンクールで初の最年少第1位(15歳)を受賞。小澤征爾指揮ハイドンのチェロ協奏曲共演はじめ広範に演奏活動をしている。現在シュトゥットガルト国立音楽大学に在学。